

学びの楽しさ集める「環境楽集（がくしゅう）」 地域の人々とつくる「ふるさと葉山川博物館」

身近な自然環境である葉山川での環境学習を基点に、地域の自然や人を愛し、みんなが幸せに生活するために、環境に配慮した暮らしや行動の仕方について考え、実行していける子どもをめざす。

1 学校の概要

本校は、京阪神のベッドタウンとして人口が急増している草津市に位置する。

平成17年よりエコ・スクールの実践校の指定を受け、校区に流れる葉山川を中心とした環境学習を重ねてきた。平成19年には淡海こどもエコクラブ大賞を受賞し、近年はFBC（フラワーブラボーコンクール）にも参加し、自然や生き物とのふれあいを体験する学習を積み重ねてきている。また、平成24年度から環境リーディング事業の指定を受け、より環境学習に重点を置いて取り組んでいる。また、平成25年度には環境省より環境保全功労者表彰を受けた。

2 「エコ・スクール笠縫東」の取り組み

（1）キーワードは、「学びの楽しさ」

社会では、地球温暖化、オゾン層の破壊、水質汚濁など、様々な環境問題がメディアに取り上げられている。

それらの問題は何か一つを変えれば解決するような問題ではなく、様々な立場の人と協力しながら少しずつ解決していかなければならない問題である。一人ひとりが自分勝手な考えを改め、相手の立場に立って行動したり、将来を見据えて行動したりする事が大切である。

本校が進める環境学習のねらいは、人と人、人と自然のつながりを学び、学ぶ楽しさを知る中で、環境への関心や地域への愛着を高めることにある。

（2）エコ・スクールは、仲間づくりから…

本校の「環境学習」は「自然環境」という意味だけでなく、「地域・人」も含め、「自然・地域・人」を広い意味での「環境」ととらえている。

一年間を通して、地域の方々にお世話になりながら地域の川である「葉山川」を基点に環境学習を進めており、このことから「葉山川学習」と総称している。

全学年が、生活科・総合的な学習の時間を中心に「葉山川学習」に取り組んでいる。この学習の一番のねらいは、自分の育ったふるさとの環境に愛着や誇りを持つことである。そして学びの過程において、子どもたちと地域の人々との「つながり」を特に重要視している。

地域には、子どもの地域での学習をサポートする「地域協働合校推進委員会」があり、特に、エコスクールについては「エコスクール支援委員会」を年2回開き、学校と地域とが連携して学習を進めている。子どもたちには、学習を通して、自然のすばらしさや人の心のあたたかさに気づき、ふるさとを大切に作る心が養われてきている。

（3）6年間を通した取組

低学年では川原にある草花や生き物を中心に、生活科の遊びの中で身の回りの生命に触れている。

中学年では、理科の学習と併せて、昆虫や水生生物などの小動物の観察を中心に調べ学習をしながら、「なぜこの生きものがここにいるのか。」ということについても考えた。

特に3年生では、葉山川周辺の昆虫探しを行った。川周辺の休耕田でも虫探しを行っていたところ、琵琶湖博物館の学芸員の方の助言もあり、偶然にも準絶滅危惧種のハッタミミズを発見できた。ハッタミミズの体長の長さや生態に驚き、自分たちで育てることにし、楽しみながら今も飼育している。



3年「ハッタミミズの発見」

高学年になり、5年生では、葉山川から琵琶湖に視点を広げて、葉山川から琵琶湖までを徒歩で辿ったり、フローティングスクールの学習をもとに外来魚について体験を交えた学習を行ったりした。6年生では、地域で環境保全活動をされている方々のお話を聞いて、その方の思いや生き方にふれ、そこから今後の自分の生き方を考えていく学習を行った。



6年 地域の環境保全活動されている方のお話

3 子どもの学習（楽集）づくりを支援する

教師・保護者・地域住民・市民団体・行政・学識者などが、「エコ・スクール支援委員会」を設置し（年2回）、子どもたちの葉山川学習をサポートする仕組みを整えている。委員会では、自然や人とのかかわりを大切にした学習プログラムづくりや支援のあり方について議論している。

4 ふるさと葉山川博物館

毎年地域で開催されている学区民の交流祭りの日に「ふるさと葉山川博物館」を開館している。多くの来館者があり、一方的に展示を見せるのではなく、子どもたちと地域の人々とは交流し、学んだことを伝える楽しさを感じている。

5 子ども学芸員タイム

子どもたちが学芸員として展示物の前に立ち、直接展示物の解説を行う時間を設けている。また、展示物については、なるべくみんなが触れながら学べるような物も作って、楽しんでもらった。

子どもたちは、自分の言葉でふるさとの自然について語る事ができた。



「ふるさと葉山川博物館」

6 発表の場を設ける

草津市で行われたこども環境会議にも複数のグループが参加し、葉山川学習で学んだことを発表することができた。こうした取り組みの中で、学習したものがより自分のものとなり、自分の思いや考えを伝える力がついていくものと思われる。

7 おわりに

葉山川学習で出会った地域の人々とのつながりは、今後も続いていこう。地域の自然をテーマにした環境学習は、持続可能な地域づくりであり、町づくりである。子どもたちがそこから学ぶ楽しさを知り、地域の人と楽しく集う関係を作りながら、自分の住む町に愛着や誇りをもつことこそ、その第一歩である。